

研究所だより 1月号

くろしお

発行:黒潮町教育研究所

幡多郡黒潮町佐賀1092番地1(黒潮町教育委員会内)

TEL 0880-55-3190 Fax 0880-55-3850

Email: kuroshio-l@kochinet.ed.jp

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/kuroshio-l/>

A HAPPY NEW YEAR! 今年もいい年でありますように!

平成23年度高知県ALT中間期研修会

12月6日(火)

高知県教育センター



各ALTが作ってきたレッスンプランをみて、コメントを付箋に書き入れていきました。



黒潮町・四万十市のALTとグループになり、1時間分のレッスンプランを作りました。その後、3つのグループが発表しあいました。



ALT・CIRが82人、日本人の教員は45人、その中で小学校教員は13名でした。4~5人のグループに分かれ、指導案やチャンツを作ったり、普段の実践を共有したりしました。グループの中で日本人は私一人だけだったため、基本的にやりとりは英語、時々日本語が飛び交うような状態でした。普段のALTの気持ちがよくわかりました。簡単な内容は英語で伝えられますが、込み入った内容になるとなかなか英語では説明できません。ALTと日本人教師が互いに歩み寄って相手を理解し合おうとするコミュニケーションの本質が常に求められる研修会でした。外国語活動が目指す大切な部分を実感できた貴重な一日でした。
(研究所HPより)

言語活動の充実とは・・・？ 今月は、「音楽科」について、「教育研究9月号」からまとめてみました。

すべては、「思いを持つ」「感じ取る」活動から

中島 寿先生

1. 音楽科における言語活動

- ・児童の思考力、判断力、表現力をはぐくめば、それに伴って児童の中の表現したい内容が充実してくる。（アウトプットするためには言語を使う技術が大切であり、その部分は言語表現を中心とする教科が担っていくべきものではないかと考える。）
- ・指導要領のB鑑賞(1)ウに、全学年共通の書き出し「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表わすなどして・・・」ではじまり、低学年は、「楽曲の演奏の楽しさに気付くこと」、中学年は「楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと」、高学年は「楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること」と、具体的に「言語活動」について示されている。

2. 「思い」を持たせる「鑑賞」授業

教材曲： ベートーベン作曲「交響曲第5番『運命』第1楽章から（6年生の教科書）
ねらい：「演奏者による表現のちがいをきき取ろう」



- ・高学年において、言語表現させて見取りたいのは、「思い」であり「感じ方」である。そのためには、「思いを持つ」「感じ取る」ことができる課題と活動の流れが必要である。
- ① 指揮者になる……自分だったらどう演奏したいかを、実際に曲の冒頭部分5小節間をひとりひとりが指揮をする。これにより、各自の中に「思い」が作り上げられる。
 - ② 指揮者や演奏者の違う演奏（冒頭部分5小節間）を聴かせ、その違いを、自分の表現とも比較させながら、意見を言わせたり、書かせたりする。すると、単に強弱や速さの違いだけでなく、その客観的な違いから、自分はどう思い、どう感じたかも表現できる。

今回は無謀にも48の違う演奏（冒頭部分だけ）を聴かせ、その演奏の「好き度」を◎○△×の4段階で示させ、更にその評価に対して、またはその演奏についての短いコメントを書かせた。

児童のワークシートより（一部抜粋）

	好き 度	コメント(理由など)		好き 度	コメント(理由など)
1	○	音の表現が自分と似てる	4	◎	音のイメージとテンポが「運命」という題に合っている
2	○	激しさが自分と似てる	5	△	あせているイメージがある
3	△	少し音がやわらかいのが△	6	△	弦楽器に頼り過ぎた音が△

短い言葉で的確に表現しているのに驚いた。「思いを持つ」「感じ取る」活動が言語活動の充実につながっていくことを実感した。



お知らせ



★平成23年度海外研修報告会

日時：平成24年1月13日（金）15:45～16:45

場所：入野小学校

内容：二岡裕幸先生による「モンゴル研修」の報告

★予告です！

2月号では、佐賀中学校 下村忠久先生（中学校外国語科）がミドルリーダー研修で学ばれたことを紹介していただきます。楽しみです。